

## 物価上昇が米利上げ期待誘うか～米消費者物価指数

2018年4月9日(月)

米中の通商問題を中心とした政治相場が続く市場。  
その一方で米経済はしっかりと成長を続けており  
3月の利上げに続いて、今年後二回前後の利上げが期待される状況に。

次々回(次回はメンバーの見通し発表や議長会見の無い回の為)の  
6月12日、13日開催のFOMCでの利上げ確率は、  
FF金利先物市場の動向から見たCMEFEDWACTHで85%強と  
ほぼ織り込み済みという状況。9月に3度目の利上げという見通しも  
過半数を超えるという状況になっています。

今年は3回で打ち止めという見方が約70%と大勢を占めていますが、  
12月にも利上げを実施して年4回という見通しもそれなりに残っています。  
こうした利上げの実施可能性において  
鍵を握ると見られているのが米国の物価統計です。

米FRBに課せられた二つの命題、  
雇用の最大化と物価の安定のうち、  
雇用の最大化はほぼ実現している状況だけに  
物価がターゲットに達し、さらに超えていくのかどうか  
利上げを決めるポイントとなります。

そうした中、今週は10日に生産者物価指数(PPI)  
11日に消費者物価指数(CPI)の発表が予定されています。

米国のインフレターゲットは、  
個人消費支出(PCE)デフレータを前年比+2.0%ですが  
PCEデフレータはその性質上CPIと動きが似ていることもあり、  
発表の遅いPCEデフレータ(3月分は4月30日発表)よりも  
CPIが重要視される傾向にあります。

前回は、総合、コアともに前年比が事前見通しと一致し  
影響は限定的なものにとどまりました。

もともと、3月29日に発表されたPCEデフレータは  
総合が予想を上回る+1.8%の好結果、コアは予想通りの+1.6%も前回値より強く  
総じて強めの数字となりました。  
2.0%のターゲットには届いていませんが  
比較的近づいているという印象。  
今回のCPI次第では、ターゲット到達が現実味を帯びてきます。

今回のCPIの予想は総合前年比が+2.3%と前回の+2.2%から0.1ポイントの伸び  
食品・エネルギーを除くコアは+2.1%と前回の+1.8%から0.3ポイントも大きく伸びるという  
強めの予想になっています。

PCEデフレータの方が、CPIよりも一般的に弱くなるため  
(代替品の取り扱いなどの違いの為)  
CPIの予想通りの数字＝インフレターゲット超えではありませんが  
期待感は十分に持てる水準で  
ドル買いを支える可能性も。

PPIの方はCPIほどの注目度はありませんが  
こちらもインフレ期待には重要な影響を与える指標です。

予想は、前年比+2.9%、コアの前年比+2.6%と  
ともに前回値よりも強めの数字。

CPIとの相関があり、発表も一日早いPPIが  
予想通り好結果を示すことでCPIへの期待も強まり  
ドルが早めに上昇する可能性があります。